



棚島さん、科学って何かの役に立つためにあるんじゃないのですか？

東京から地方へ、そして地方から東京へ／おやこも、子どもも安心して自転車に乗れる街がいい
夏休み谷根千まち歩き報告／博物館の展示は何かを伝えるのですか？／
書評：「走る原究」エコカー 危ない水素社会／STAP 細胞事件は解決したのか



市民研へのご入会／ご寄付のご案内

この『市民研通信』に紹介されている記事論文など、市民研の活動成果は、どなたであっても無償で読んでもらえるように、ホームページですべてを公開しています。市民研では、こうした非営利・完全公開の趣旨に賛同し支えてくださる方々に、ご入会やご寄付をお願いしています。

入会と寄付に関しては3つの選択があります

1.ワンコインサポート 500円を市民研に送金することで市民研を支えるやり方です。

入金と同時に「3ヶ月間のお試し会員」になることができます。「お試し会員」を希望される場合はその旨をお伝えください。関連資料を送付いたします。希望されない場合は、ご寄付として扱わせていただきます。

2.会員登録 年会費を送金して次のいずれかの会員になることができます。

- ★レイチェル会員……年会費 10,000円 (総会における議決権あり)
- ★ダーウィン会員……年会費 3,000円

会員になると、

- 『市民研通信』+別刷論文1編が隔月で送付されます。
- 過去の市民科学講座などの配布資料をPDFでダウンロードすることができます。
- 事前に連絡をいただければ各研究会にskype参加ができます。
- 市民科学講座などイベントのu-streamの予告お知らせが届けられます。
- 市民研メーリングリストならびに各研究会メーリングリストに参加できます。
- 市民研所蔵の書籍、映像資料が利用できます。

3.寄付 一口1,000円から受け付けております。

※ご送金の方法：以下の3つのいずれかでお願ひ致します。(市民研ホームページからも受け付けています)

郵便振替……口座加入者名：市民科学 振替口座番号：00160-4-608503

銀行口座……三菱東京UFJ銀行 本郷支店 普通預金口座：4592759
口座名義：特定非営利活動法人市民科学研究室

PayPal……手数料がかからない国際的に利用されているオンライン送金システムです。

Event 市民研 食市民研・食の総合科学研究会+NPO 法人ポラン広場 共催

子ども料理科学教室 「タンパク質」「保存食」の参加者を若干名募集中！

子ども料理科学教室は、NPO法人市民科学研究室が独自開発した、科学実験と料理の技の習得を結びつける、新しい食育プログラムです。実験しながら料理をすることで、「なぜこの調理法でうまくいくのか？」を五感をとおして自ら探求することができます。10回で和食の基本メニューをひとつたり扱うのも大きな特長です。使用する材料は、ポラン広場東京の有機・自然食品です。



- 開催日** 第8回 10/18(日) …… 豆や卵がカラダに変わる?!
～たくさんの顔を持つタンパク質の不思議～
- 第9回 11/15(日) …… 捨てないでおいしく長持ちさせるわざ
～食べ物をとことん生かす保存食～

- 時間** 10:00-12:00
- 場所** 立川市女性総合センターアイム 料理実習室
- 対象** 小学4年～中学3年生 **参加費** 500円

⇒詳細&申込については、市民研またはポラン広場ホームページをご覧ください。

Event 3つのイベントのお申し込み・問い合わせは市民研ホームページにて

市民科学講座Aコース 第2回 毒性学からみた放射線の人体影響

●講師：菅野 純(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部部长)

- 日時** 10/3(土)14:00-17:00 (開場 13:30)
- 場所** 文京区 アカデミー文京 学習室 (文京シビックセンター地下1階 東京メトロ「春日」「後樂園」駅すぐそば)
- 参加費** 資料代 1000円 (学生 500円) **定員** 60名

市民科学講座Cコース第11回 岡本正子さんと料理を作り、食と健康を語り合う

- 日時** 10/4(日)13:00-17:30 (調理開始は 13:00)
- 場所** 新アカデミー向丘 料理実習室 (メトロ南北線「東大前」駅より徒歩1分)
- 参加費** 2000円 **定員** 20名
- 持ち物** エプロン、場合によって若干の調理器具

市民科学講座Cコース第12回(市民科学研究室「bending science 研究会」主催) 「人間のための科学」にみる科学のねじ曲げ(Bending Science) ～音響学・聴覚技術、水俣病、「緑のダム」を事例に～

- 日時** 10/10(土)14:30-17:30 **場所** 光塾 COMMON CONTACT 並木町
- 参加費** 500円 (定員 40名)

Event 市民科学講座Bコース

2015年7月から始まった市民科学講座Bコース。第1期は 2015年7月から2016年6月までの1年間で、全14回です(毎月1回、8月と3月は2回)。

第5回 10/22(木) 最相葉月さん、カウンセリングってどのような仕事なのでしょう？(仮題)

●最相 葉月：ノンフィクション作家。『セラピスト』ほか多数の著書がある。



第6回 11/27(金) 眞鍋じゅんこさん、日本の「暮らし」の魅力はどう探っているのですか？(仮題)

●眞鍋 じゅんこ：日本中の村や離島を取材しつづけているフリーライター。『ニッポンの村へゆこう』ほか多数の著書がある。



- 時間** 18:30-21:00 (18:00 開場)
- 場所** 光塾 COMMON CONTACT 並木町
- 参加費** 1000円 (学生 500円)

⇒事前予約が必要です(定員40名先着順、申し込みは市民研ホームページより)



東京から地方へ、そして地方から東京へ

「もうじき定年ね。これまでいっぱい働いてきたのだから、これからは余暇が一杯でいいよね」

周りでちょこちょこそうした会話が聞かれるようになった数年前、定年後をどう過ごすかを考えるようになった。趣味や旅行などでゆったり過ごす人もいれば、現役時代と変わらず動き回っている人もいます。私はといえば、生涯現役社会づくり学会（2015年閉会）の会員であったぐらいだから、当然、後者。

取りあえず、2009年4月から、周りの人達と農・食・医同源研究会という任意団体を始動させ、月1回、市民へ公開する講座を開くことにした。ネーミングは、医食同源という言葉があるが、医が先ではなくて、食が先、その前に農業・漁業・林業など第一次産業とそれを包む環境があるという気持ちを込めたネーミングである。……

⇒つづきは市民研 HP で



▶表紙の写真：広島県東広島市安芸津のじゃが芋畑でのいも掘り

孫 大輔（みんくるプロデュース代表）

夏休み谷根千まち歩き報告 （8/18・8/19）

みなさん、こんにちは。一般社団法人みんくるプロデュース代表の孫と申します。みんくるプロデュースとは、市民・患者と医療専門家をつなぎ、コミュニティの健康を向上させる活動を行っている団体です。ふだんは、「みんくるカフェ」という市民と医療者の対話の会や、地域のフィールドワークを通して地域の健康を考えていく活動などを実践しています。

みんくるプロデュースでは、今年の8月に、NPO市民科学研究室（以下、市民研）と協力して、主に医療系の学生や専門職の人々とともに、谷根千（やねせん）＝谷中・根津・千駄木のまち歩きを通して、地域の暮らしと健康を学ぶ2日間のイベントを開催しました。……

⇒つづきは市民研 HP で

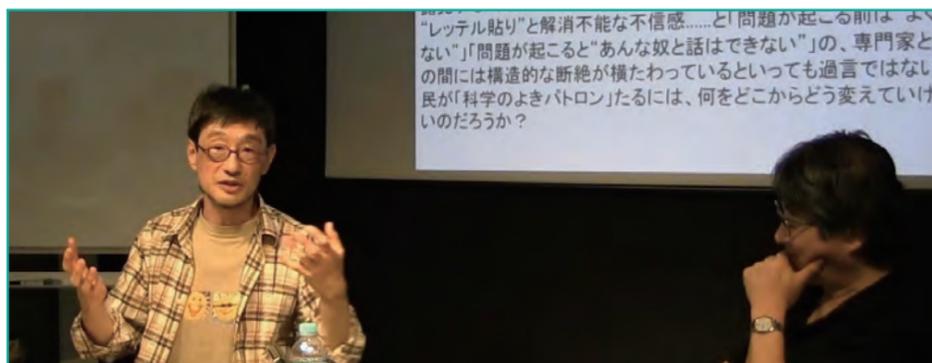


▲「健康まちづくり」事業のロゴ

櫛島さん、科学って何かの役に立つためにあるんじゃないのですか？

ぬで島さんは、急激に進展している先端医療分野を対象に、どんな倫理やルールが社会に必要なかを考え、提言し続けてきた人だ。とりわけ、日本の生命倫理の政策対応が、例えばフランスと比較して“つぎはぎ”状態であり、そのことから様々な問題や矛盾が生まれている、と鋭く指摘してきた。では、何を基本にすえてどう系統立てていくか—新著『生命科学の欲望と倫理』では、「科学する欲望」「現世利益を求める欲望」を軸にして、生命科学、臨床医学、ひいては科学研究全般が社会とどう関係付けられるとよいかを、描き出そうとしている。そこでは、「よく同世代の人から、まだSFを読んだりするのかと聞かれることがあって、心底衝撃を受ける。私にとってその質問は「まだ息をするのか」と聞かれるのも同然だからである」と語るぬで島さんの、「科学する欲望」の独自の価値をしっかりと認めてこそ「倫理」が成立するのではないか、という認識が土台にすえられている。市民はいかにして科学のまっとうなパトロンたり得るか、という重要な問題もその認識と深く関係する。ぬで島さんに、「科学は何のために？」をじっくり問うてみるこの意味は大きい。……

⇒以下、講座記録は市民研 HP で



林 浩二（千葉県立中央博物館）

連載 博物館と社会を考える

第3回 博物館の展示は何かを伝えるのですか？



何をもって博物館と扱うのかという議論はひとまず置くこととして、今回は博物館の展示について考えてみたいと思います。

博物館では、研究・展示・教育の専門職員である学芸員が、数ある資料の中から何を選び、どの順番に配置し、どのように見せるのかを決めますが、担当の学芸員が前面に出てくることは稀です。その例外の一つ、滋賀県立琵琶湖博物館の常設展示室のC展示室は、間もなく2015年11月8日をもってリニューアルのため閉鎖されます。……

⇒つづきは市民研 HP で

◀担当学芸員の顔写真入りのコメントの展示（滋賀県立琵琶湖博物館の企画展示「外来生物」で、2003年9月9日撮影）

橋本正明（市民研会員、自称・市民科学者）

書評

『「走る原発」エコカー 危ない水素社会』（上岡直見 著）

「走る原発」エコカー”私がこの奇妙なタイトルの本に遭遇したのは、ある大型書店の大きな書架を曲がりきった処であった。一見して人の注意を惹きつける黒と黄のコントラスト、いわゆる踏切の遮断機の色だ。自然界ではそれは「警戒色」と言われ、他の生物にその存在と危険性を知らしめる役割を果たす。……

⇒つづきは市民研 HP で

おやこも、子どもも安心して自転車に乗れる街がいい

このたび、自転車ツーキニスト（自転車で通勤する人）・疋田智さんの監修で『おやこで自転車はじめてブック』という本を作りました。この本は、幼い子どもと暮らす人、とくに都市部で子育てする女性に向けて企画・編集したものです。



ここではこの本を作ったわけと本の内容、本を作る過程で考えたことを書かせていただきます。

ちなみに、「ぼちぼち自転車くらぶ」は出版にあたって考案した屋号ですが、どんな印象を持たれますか。そう、ぼちぼち自転車は、早くは走れませんが、なにかあるとふと立ち止まったり寄り道したり。バッグや買い物袋でカゴはいっぱい。でも、生活の足としての自転車を愛する、という思いをここに込めました。……

⇒つづきは市民研 HP で

林 衛／榎木 英介（ともに市民研会員）

STAP細胞事件は解決したのか—その検証を検証する（その3）

995年1月17日未明に神戸・阪神間の200万都市圏の直下で生じた兵庫県南部地震のほんの10秒程度の激しい揺れが、死者約6500人、被害額（国土庁推定）約9兆6000億円という阪神・淡路大震災をもたらした。1948年の福井地震以来はじめて都市直下で生じた大地震によって、戦後50年のあいだに築いてきた日本の近代都市の脆弱さが露わになったのだ。自由民主党衆議院議員だった加藤紘一氏は、同1995年9月に自由民主党幹事長に就任、科学技術基本法、科学技術基本計画、知財への建設国債投入といったバブル崩壊後の経済・科学技術政策の旗振り役となる。

同氏による『新しき日本のかたち』ダイヤモンド社（2005）では、当時を振り返り、9兆か8兆5000万円かで大議論となっていた公共投資に比べ、当時東大総長だった吉川弘之氏に頼まれた300万×500人＝150億円は安いもの、そんな発想からポスト1万人計画などが実現していった過程が語られている。……

⇒つづきは市民研 HP で

